

平成29年度第5回狭山市社会教育委員会議 会議録

開催日時 平成30年2月15日(木)
17時00分から19時30分まで

開催場所 市役所 302会議室

出席者 小暮委員 江頭委員 大野委員 金子委員
近藤委員 鈴木委員 名雲委員 森山委員
山田委員 江上委員 小口委員 西村委員
野村委員 吉田委員

欠席者 矢武委員 小川委員 篠塚委員 高橋委員

事務局 向野教育長、田中社会教育課長
社会教育課社会教育・生涯学習担当 三浦 遠藤

その他
傍聴者 1名

1 開 会

2 あいさつ 議長 教育長

3 議 事

(1) 社会教育委員会議の取り組みテーマについて

議 長 「地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるしくみについて(提言)」の素案を提示させていただいた。この素案は、これまでの議論を踏まえ、年明けより、議長・副議長でまとめの作業を行い、たたき台として委員の皆さまに提示させていただいた。本日は、最終協議の場として、この素案に対し意見を出していただき、提言書として完成させたい。

議論に入る前に、本日配布した資料について、事務局より説明

・事務局から資料の説明

参考資料「学校応援団研修会資料（2/14 開催）」のポイントを報告

議 長 まず提言の全体像について伺い、それから個々の内容や表現に関して意見をいただきたい。

素案について説明を加える。今まであまり議論に上がってなかった点も、たたき台として盛り込んでいる。特に行政に関しての部分については、単発的には出ていたが議論していないと思うので、意見を交わしたい。「地域」については、素案では「小学校区」で考えた。また、各地域のコーディネーターをまとめる「統括コーディネーター」についての議論があったが、今回の提言には入れずに、コーディネーターを横串で繋ぐ「地域コーディネーター会議」を提言に盛り込んだ。

この提言には、4つポイントがある。1点目として、狭山市では既に学校支援はたくさん行われているという点。2点目として、支援はたくさんやっているが、それぞれの活動がバラバラで横のつながりがない、活動している人がもっと動きやすいようにしたいという点。3点目として、学校の多忙感を和らげ、今後進めて行こうとしている教育行政施策の後押しとなるようにしたいという点。4点目として、学校を核とした「人づくり」「地域づくり」「生きがいくくり」が最終的な目標で大事なところであるという点。この4つが提言のポイントと考える。

委 員 5 ページの図 2 「狭山市地域学校協働活動のイメージ図」では、「地域学校協働本部」は、学校と地域社会の間にある組織として描かれているが、6 ページの図 3 「学校と地域の関係を

表す」では、地域学校協働本部は地域側にあり、学校側の連携担当職員と、地域コーディネーターが連携する図になっていて、現行の「学校応援団」と変わりが無いように思えてしまう。

「地域学校協働本部」の機能は、もう少し学校側に入って、地域も学校づくりに関わる、学校も地域づくり関わるという学校と地域相互の橋渡しするものとイメージするが、いかがか。

議長 2図は、「地域学校協働本部」の機能（学校と地域の間を仲立ちする機能）を示した図で、3図は、具体的にどう連携するかを説明した図となっている。

副議長 3図は、「地域学校協働本部」の構成要素と、連携の要として「地域コーディネーター」がいるということを示した図となっている。

委員 3図では、「地域学校協働本部」が地域活動団体を包括した組織のように見えてしまうが、2図のように様々な団体を繋ぐ「接点」としてあるので、3図だと誤解を招いてしまう。

委員 それぞれ独立した団体があり、それとは別に、団体間の橋渡しをしたり、調整をしたり、推進事業を行ったりする「本部」を作るのだから、各団体が「本部」の枠の中に入っていないといけない。

委員 3図では、各団体が「本部」の下部組織であるかのような誤解を生んでしまう懸念がある。「学校」と「地域」はもともと直に接していて、「地域学校協働本部」は様々な活動を、例えていえば三角形で繋ぐもの。それをうまく図で表現できないか。

<ここで、議論を一時保留し、他の議論を行った後、再度戻って議論を行ったが、議事録には続けて掲載する>

副議長 「学校」も「地域」の中にあるので、地域の枠が学校も包括していないといけない。

委員 『本提言では「地域」を小学校区で考えることとした。(P3)』と記してある。

副議長 ここまで突き詰めて提言する必要があるのか。実際の組織を作るのはそれぞれの学校区であり、概要が示せばよい。

委員 ここでは、概念図で良い。実際に行う時には、それぞれの活動の期待値を教育委員会が示すべき。(今回の提言ではなく、次の段階と考える。)

議長 学校を主体とした「学校運営」というところで「コミュニティスクール」があり、地域を主体とした議論の中で「地域学校協働本部」がある。これをドッキングさせることで、一石二鳥となるもので、その考え方の概念図としてこの図はあるが、混乱させることとなってしまった。

委員 図に描くというのは難しく、地域により状況も違いに流動性もあるので、無理に図に表さなくても良いのではないか。

委員 図1と図3を比べて、図1ではほぼ概要は示されている。図3は「地域コーディネーターが必要」という図になっている。図1で足りないのは、地域コーディネーターの必要性のアピールだと思うので、そこだけ議論すれば良いと思う。

<以上の議論を経て、最終的に、文章表現によって提言の趣旨は伝わるという意見にまとまり、3図は削除することとなった。>

議長 全体論ではなく個別の議論に移る。

委員 5ページの「学校との関り方」の部分で、「子どもには、学力以外に身に着けさせる社会性・人間性も必要であり、学校で手が届きにくいところに、地域としての役目があり、それを実行に移すのが地域学校本部である。」とあるが、まさにその点を強調したいところである。この視点は、子どもにとって大切なだけでなく、学校・教師にとっても学校以外の社会に生きている人と触れ合うことにより、良きアドバイスを受けられる。その点の効果についても文章の中に入れてたい。

委員 1点目、10ページの、【まとめ】「3.狭山市の教育に資すること」の最後、「また、学校教育に従事する教職員の忙しさを和らげることができる。」という一文について、これは、地域で学校を支える意味として一般に言われていることであるが、この「忙しさ」の原因や、問題点についてもう少し具体的に提起して提言できたらより意義深いものになるのではないか。

2点目、先ほど議論に上がった「図3」にも関係する点であるが、文章の中で「地域学校協働本部」の構成として「PTA、地域子ども教室、SSVC、おやじの会、自治会、公民館、文化サークル・・・」と文中にあるが、「おやじの会」までは、その活動自体が学校に関わっている団体・組織であるが、その後の「自治会、公民館、文化サークル・・・」については、この提言を読んだ一般の方には「地域学校協働本部」に関わるこの意味、期待値が分かりにくいのではないか。一本突っ込んでおかないと、実際に力にならないのではないかと思う。例えば、文化サークルの活動には「自己実現」という目的がまずあって、それと「地域活動」や「学校支援」をどう位置づけるのか、提言の中に盛り込むべきかどうかとはさておき、実際に

「地域学校協働本部」を立ち上げる際に押さえておくべきところだと思う。

3点目、「居場所」という言葉の使い方について、「子どもの居場所づくり」「コーディネーターの居場所の確保」と2箇所出て来るが、表現としていかがか。

議長 最初の「学校との関り方」の「学校・教師も変わってほしい」という点については、意見として頂戴しておく。「教職員の多忙感」については、2ページ目の【現状と問題点】で触れているので、流れで分かっていただけではないか。“居場所”という表現についてはいかがか。

委員 「教職員の多忙感」を【現状と問題点】でまとめたところは良いが、提言の最後の言葉としてはいかがなものか。「頑張っ先生たちのためにやります」と押しつけがましく感じられるので、「教員たちが教育に十分力を発揮するような環境を、地域が協力してつくりたい」的な言い方が良いのではないか。

「居場所」については、「子どもの居場所」は、社会教育の現場では言葉として定着していると思うので良いが、「コーディネーターの居場所」は「コーディネーターが常駐できる場所」の方が伝わりやすい。

委員 最後の締め部分は、「忙しさを和らげることができる。」で終わりではなくて、「忙しさが和らぎ、より質の高い教育が実施できる」としたい。また、コーディネーターの効果になるが、個々のメリットだけでなく、全体としてのメリット、学校教育、家庭教育、社会教育の「共生」によって、お互いに学び合い、高め合うという共通のメリット、何より相互理解が深まるというメリットを挙げたい。何を出すかは別として、三つの輪、又は二つの輪が重なったメリットが【まとめ】に入ってくると良いと思う。コーディネーターの役割の効果として、学校

教育、社会教育の共通するメリット、相互のメリットが一つ表現されていると良い。

委員 提言は誰宛に出すのか。

議長 教育長宛である。

委員 市長宛の提言書を出したことがあるが、「要望書」ではなく「現状を分析し、こうしたらどうでしょうか」という形だった。今回も同様のスタンスか。

議長 もう少し、強く要望を出したほうがよいか。

委員 具体策は出されているので良いが、まとめのところでもう少し・・・今、代案がないのだが。

議長 今回の提言の流れは、過去の社会教育委員会議の提言の流れに準じた形でまとめたが、強い意見があれば変えることもできる。

委員 「本部」というと、イメージとして「長」がいて、そこに各団体の代表が集まるといったイメージを持ってしまう。ネーミングについてはいかがなものか。

副議長 文科省のモデルで「地域学校協働本部」となっている。そこにいるのはコーディネーター(本提言では3名必要と考えた。)で、コーディネーターを中心に、従来とは違った組織体をつくるもの。イメージに縛られてしまうようなら変える必要もあるかと思う。

委員 「本部」は、様々な人が「代表」として集まり、色々と協議していく場で、コーディネーターがコントロールするが、関りを持っていく、連携していく、つまり地域協働活動を行っていくためのものだから、縦系列ではない。先ほど「三角形」の繋

がりということが出ていたが、「学校」と「地域」と「本部」は三角形で3つがうまく繋がっている形だと思う。「学校を含めた地域づくり」を行う場という視点で考えると良いと思う。

委員 「地域コーディネーターが機能するために必要なこととして複数体制（3人体制が考えられる）基本とする」となっていて、それは、現在の学校応援団の実際から、連携のベターな方法として示されているのだが、それと「本部」というネーミングが結びつかなかった。説明で納得できた。

議長 本提言では「統括コーディネーター」は設けない形になっている。そんなスーパーマンはいないと考え、コーディネーターが一堂に会し情報交換なり議論を行う「地域コーディネーター会議」を設けるとした。そして現場で何が動いているかを知ってもらうために、図では教育長が議長となっている。教育委員会が「協働」していく形を示した。

委員 地域コーディネーター会議の図を見ると「本部」が集まっている図となっているが、言葉の感覚として違和感を覚える。

副議長 各小学校区の「地域学校協働本部」を「地域学校協働会議」として、「地域コーディネーター会議」を「地域コーディネーター本部」としても問題ない。

委員 企業のように「本社」があって「支社」がある関係ではない。それでは「長」がある組織になってしまう。

委員 今回の提言は「学校を核とした地域づくり」で、地域づくりが主役であるのだから、「地域コーディネーター会議」の議長が教育長というのはおかしい。学校教育の問題に収束し浅くなってしまう。究極的には、地域づくりがうまくいけば学校がうまくいく。色々な人(福祉の人とか)が地域に関わっていて、ま

た学校にも関わっている。視野を広げるべきだと思う。この会議は地域コーディネーターの連絡会議とし、教育委員会も市長もオブザーバーで参加してもらえば良い。

議 長 それでは、「地域コーディネーター」の⑥支えるために必要なことの最初の項目を、「各学校の地域コーディネーターが一堂に会して、情報交換、情報共有する場『地域コーディネーター連絡会議』」を設ける。会議は教育委員会が招集し、市長、教育長はオブザーバーとして出席する。」と、まとめたいと思う。

< 「地域学校協働本部」の名称については、「(仮称)地域学校協働本部」と表記することとなった。その他、文言等の修正点について意見交換を行う。 >

P 1 『平成19年(2007年度)に「学校支援ボランティアセンター(SSVC)」が市から委託事業として開設され』については、「市の事業として設置した」と明記すべきではないか。

P 1 『学校施設と生涯学習施設の複合化の動きも始まっているが』について、本提言で記す必要があるのか。

⇒ 方向性として示されているのでこのまま記載

P 2 『学力を培う学校・社会性を培う地域・人間性を培う家庭が三位一体で当たることが不可欠である』

⇒ 『学力・社会性・人間性を学校・地域・家庭が三位一体で培うことが不可欠である』と修正

P 2 『現状の学校応援団が十分に機能しているとは言い難い』について、資料を提示したりして具体的に示すべきかどうか。

⇒ 議論のための資料で、精査したものでない。提言を読む人が先に進むのに効果的なものなら良いが、反発される恐れもあり出すべきではない。

P 7 地域コーディネーターの「③あるべき位置づけ」『立場を市として認知する。身分を保障する。』については、『有償で非常勤職員とすることが望ましい』等、具体的に示した方が良いのではないかと。

⇒ 様々な意見が出されたが、組織的運営のための方向として『有償も検討する』となった。

P 8 『遠からず「ヒマな退職者」は居なくなると思われるので』は表現としていかがか。

⇒ 削除

P 1 0 『学校教育に従事する教職員の忙しさを和らげることができると』に『子どもと向き合う時間が増える』を付け加えたい。

議 長 今回、色々な意見、議論があった。これを議長、副議長の3人でまとめて、皆様に提示し反映させる形で、完成に持っていきたい。

副議長　今回のテーマに取り組んで、学校と地域の連携・協働と旗を振る教育委員会は一体何をしているのかなと思った。それで、「教育委員会」の役割を示すために、「地域学校協働活動を推進するための体制」（図４）に、「地域コーディネーター連絡会議」と「狭山市教育委員会」の協働の矢印を入れた。本気で狭山の子どもたちのために地域と学校の協働を実現させようと考えたら、だれがやるのと言ったら自分たちであり、その中で当然、市、教育委員会がかなり大きな部分を担っているということを理解した上で、提言を受け取って実施して欲しい。スタートの歯車を押すのは教育委員会であり、社会教育課であると思っている。

事務局　提言がまとまり次第、４月になるかと思うが、受け取り、施策につながるよう取り組んでいく。

4 事務連絡

- (1) 入間地区社会教育広報「さわらび」について
- (2) 第２３回入間地区生涯学習フォーラムの開催について

5 閉　　会